

経営比較分析表（令和4年度決算）

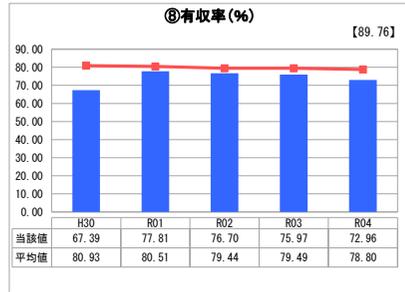
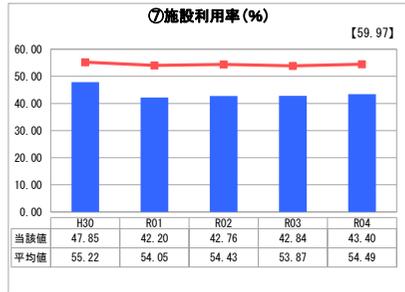
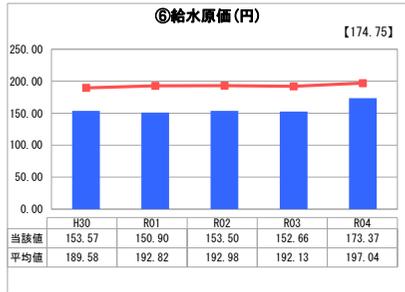
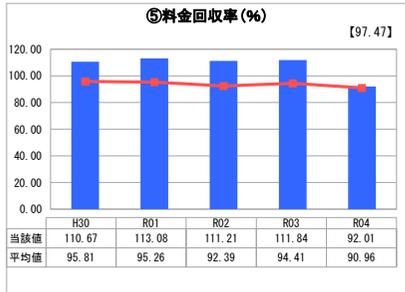
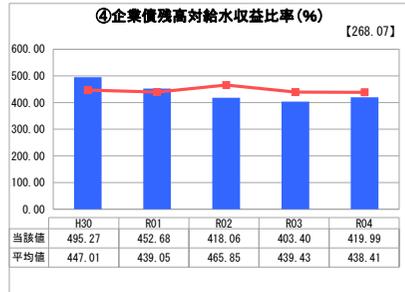
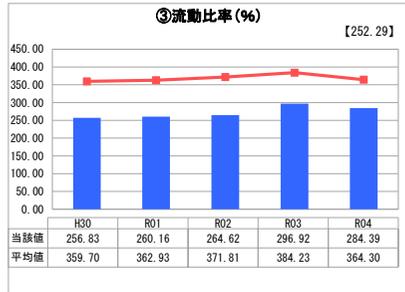
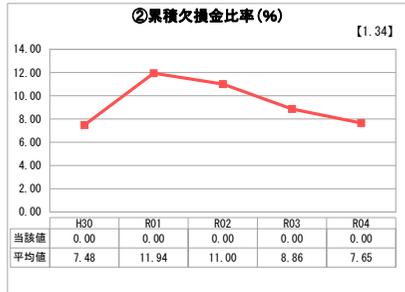
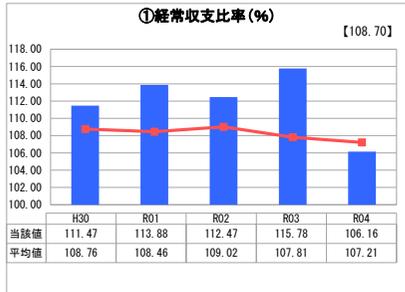
青森県 野辺地町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	58.97	99.57	3,080	

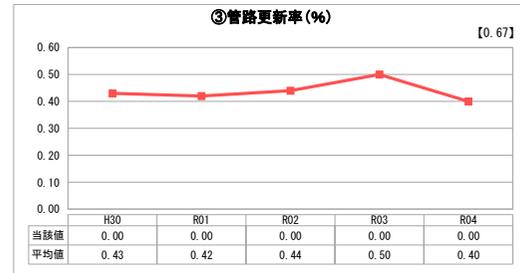
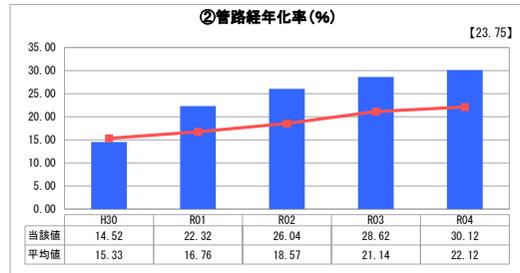
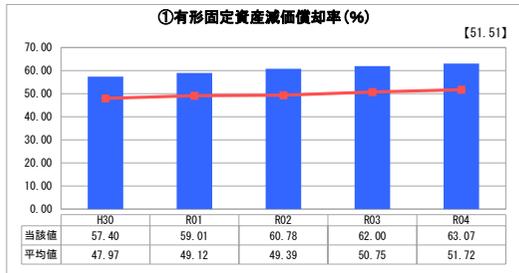
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
12,341	81.68	151.09
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
12,134	24.16	502.24

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【現状分析】
 ① 経常収支比率については、現在のところ問題はないと思われる。
 ② 累積欠損比率については、直近10年間で欠損金は発生していない。
 ③ 流動比率については、増減の変動はあるものの一定傾向にある。
 ④ 企業債残高対給水収益比率については、給水収益は前年度より増加したが、企業債残高については減少傾向にある。
 ⑤ 料金回収率について、適切な料金回収ができていない。(R4年度分については、水道料金の基本料金減免事業の実施により100%を下回っているが、R5年度も同じく減免事業を実施しているため、この傾向が続くものと思われる。)
 ⑥ 給水原価について、多少の増加がみられるが低い原価を確保している。
 ⑦ 施設利用率については、人口の減少と遊休状態の施設があるためだと考えられる。
 ⑧ 有収率については、令和元年度から漏水調査を独自に実施し、令和4年度も継続して行っている。また修繕等の対応を行っており対策は講じている。

【課題分析】
 人口が減少傾向であるが大口事業者の需要は高まっている。給水収益が前年度より減少した要因として考えられるのが人口減少の影響と住民の節水意識の向上の影響と思われる。

2. 老朽化の状況について

【現状分析】
 ① 有形固定資産減価償却率について、全国平均値及び類似団体平均値を上回っており、また、数値も年々増加しているため、法定耐用年数に近い施設等が多く存在していることがわかる。
 ② 管路経年化率について、40年を超えた管路が総延長の約30%存在しており、年々増加している。また、全国平均値及び類似団体平均値よりも高い比率であり、管路の老朽化が顕著である。
 ③ 管路更新率について、施設の更新事業の方を優先的に実施しているため、ここ数年、管路更新事業については実施していない状態である。なお、R2～R6で送水管の布設替を実施しているがR6年度に完了することから更新率には反映されていない。

【課題分析】
 法定耐用年数を超えている又は法定耐用年数に近い施設の統廃合・改修や配水管等の長寿命化を図り、適切な資産管理を行っていく必要がある。

全体総括

経営の健全性・効率性については、施設利用率・有収率の項目が下回っており、その他の項目については、上回っている状況である。施設利用率を増加させるためには、遊休状態の施設への対応方法に関する検討を進めていく必要がある。また、有収率向上対策として令和元年度から漏水箇所を特定するための調査を実施していることにより、数値はほぼ横ばいで推移している。施設や管路の老朽化については、法定耐用年数に近い管路等の更新ができていない現状であるため、また老朽化等により配水管・送水管内で漏水が起きているため、令和元年度より漏水調査に力を入れ令和4年度も有収率向上に努めている。現在、人口が減少傾向であり、併せて施設等の老朽化についても進んでいくため、計画的に施設や管路の更新をしていくためにも、R5からアセットマネジメント(30)の策定、R6はアセットマネジメント(40)及び水道基本構想を策定し、R7には、水道ビジョン及び経営戦略(経費削減)の策定を行い、資産管理と老朽化と施設の更新を含めた計画管理を実施しながら、適切な水道事業運営を行っていく必要がある。今後はさらなる経費の節減、漏水調査等の継続実施や水道料金の改定も含め協議・検討を行っていく。